

人生の大切な示唆を与えられるとき

- チャペル・アワーへの招き -

樋 口 進

関西学院は、建学の精神である「キリスト教主義による教育」を重んじています。そしてそのために、チャペルの時間が設けられています。大学においては、毎日1限目と2限目の間の30分間がチャペルの時間とされ、各学部、大学院でチャペルが行われています。また、梅田キャンパスにおいても、月2回夕方方の授業開始前にチャペルが行われています。このチャペルは、関西学院が創立されて以来ずっと最も大切なものとして続けられてきています。ですから皆さんは、このチャペルに出ることによってもっとも関西学院らしいものに触れることができると思います。

チャペルにおいては、讃美歌が歌われ、聖書が読まれ、祈りがなされ、そして講師によるメッセージがあります。これは直接授業とは関係がないかもしれませんが、しかし私たちが人間として生きるに当たって真に大切なものについて考えさせられたり、静かに自分を見つめ直す貴重な時になると思います。「私たち人間は何のために生まれてきたのか」「私たちはどこから来て、どこに行くのか」などといった人間の問題を考える時にもなります。そして、世界のベストセラーである聖書の言葉は、私たちにその時々に必要な示唆を与えてくれると思います。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」という言葉（マタイによる福音書11章28節）によって、深い慰めを与えられたという人もいます。「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」という言葉（ローマの信徒への手紙5章4節）から希望を与えられたという人もいます。また、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」という（マタイによる福音書4章4節）から真の人間の生き方を学んだという人もいます。聖書には、その時々私たちに生きる示唆を与えてくれる珠玉の言葉がたくさんあります。

またチャペルにおいて歌われる讃美歌によって、勇気や希望が与えられるという体験をする人もいます。チャペルに参加することによって、あなたの人生にとって何か大切なものを得ることができるかもしれません。そしてこのような体験は関西学院でしか得られないものだと思います。

（宗教センター宗教主事）